

■研究室名 日本語学研究室（3号館3階） ■教員名 池田史子

■日本語学研究室の受け入れ方針

日本語の美しい規則にうっとりしてしまう人，方言調査に出かけることが楽しみな人，レポートを書くときは、いつも読者のことを思い浮かべている人，提出物は設定された締め切りの2～3日前には出すように心がけてきたか，これからはそうしようと思っている人，授業もアルバイトも同じように大切な人，そんな人が来てくれたらいいなあと思っています。

■演習科目の紹介

基礎演習Ⅰ（2年生）

前半8回は，専門演習，卒業演習に進む前に身につけておきたい，「聞く力・課題発見力・情報収集力・情報整理力・読む力・書く力・データ分析力・プレゼンテーション力」について，何が重要かを事前学習で確認します。持ち寄ったキーワードを進行係のもとで確認し合います。

後半7回は，前半で身につけた8つの力を実践するために，グループでテーマを設定してミニ調査を行い，結果をプレゼンテーションします。



基礎演習Ⅰ

専門演習Ⅰ・Ⅱ（3年生）

専門演習Ⅰでは，現代日本語方言についての概説書を読んだのち，調査計画の立て方や調査内容の組み立て方について学びます。担当者が報告を行い，それについて全員で質疑を行いながら理解を深めています。並行して，研究に必要な専門分野に関する情報収集方法を学びます。

専門演習Ⅱでは，各自でテーマを設定し，実際に夏季休暇中に調査・実験を行ったデータをもとに，その分析結果を報告する形式で進めています。場合によっては，このテーマや調査方法が卒業演習Ⅰ・Ⅱへとつながる場合もあります。プレゼンテーションの方法を学ぶために，方言関係の全国学会を見学に行ったこともありました。

卒業演習Ⅰ・Ⅱ（4年生）

現代日本語をテーマとした卒業論文に取り組みます。座学によって収集した文献や資料を用いるだけでなく，できるだけ実際に臨地調査を行うことで，生きた音声データを収集し，それについての分析や考察を行うようなテーマの選択を推奨しています。そういう過程を通じて，現代日本語についての知識獲得だけでなく，コミュニケーション能力や主体的判断力，創造力が身につくことが期待されます。これまでの先輩たちが取り組んできたテーマは，次のとおりです。

- ・ 山口県長門域におけるザ行音・ダ行音・ラ行音の混同の実態
- ・ 英語母語話者における日本語長母音の知覚特徴
- ・ 奄美大島龍郷町の可能表現について
- ・ 金子みすゞ語彙の数量的研究
- ・ 京都市方言「ハル敬語」について
- ・ 国会会議録にみる「など」「とか」の表現について
- ・ 宮澤賢治作品におけるオノマトペ表現の研究
- ・ 「博多にわか」にみる言葉遊び
- ・ 料理絵本のオノマトペについて



日本方言研究会

